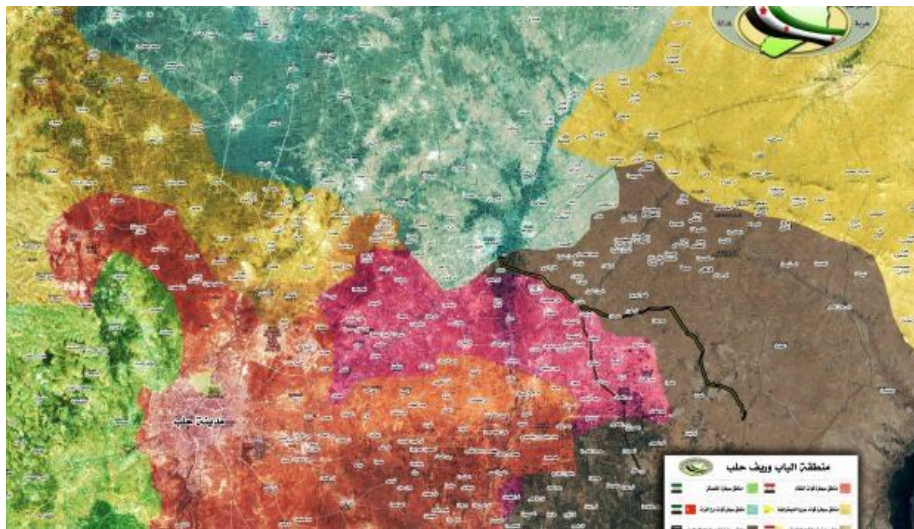


7月クルディスタン報告

総論

イラク軍主体のモスル解放作戦に終わりが見えてきたことから、イラクにおけるダーイシュ掃討作戦にも一区切りがつくことになった。ハウィジャを除き支配地域にもはや主要なダーイシュ拠点がなく、イラクのクルディスタン地域では、ダーイシュ掃討後に当然期待される独立の動きが益々加速していくことになった。クルディスタン地域の指導者たちは、欧米含む関係各国へ理解を求める動きを中心に根回しを進めていく。イランとパイプがあるクルディスタン愛国者連盟（YNK）指導者ジャラル・タラバニは、イラン訪問を行い理解を求めた。諸外国の公式的な賛同の声明が得られることは期待していないものの、少なくともイラク政府側につくことがないようにする目的がある。一方でイラク中央政府とは相変わらず鏖迫り合いが続いた。バシーカ周辺でシーア民兵部隊・人民動員軍がペシュメルガ兵士三人を逮捕した事件は、住民投票に対し抗議し、それが対ダーイシュ作戦に支障をきたすことを示す目的が示唆された。

クルド人主体のシリア民主軍（QSD）によるラッカ解放が進む反面、北シリア・シャフバ地域におけるトルコ軍による軍事行動がクルド勢力の行動を妨害する場面が目立った。



水色の部分がシャフバ含むトルコ軍及び傘下勢力による占領地域

トルコ軍は今年2月にダーイシュから戦略的要地であるアルバーブを奪取し、昨年7月以来続く「ユーフラテスの盾」に一応の区切りが着いたと発表した。しかしその後もクルド勢力によるロジャバ統一を防ぐため北シリアに居座り続けた。ラッカの作戦が終了すれば次は確実にトルコ軍からのシャフバ解放が戦略目標になることから、再び大きな軍事行動を起こしクルド勢力の作戦進行を妨害しようとした。これはかえって北シリア住民の反感を買い、団結を呼びかけるPYDの求心力を強めることになった。さらにダーイシュ壊滅を最重要課題に位置づけるアメリカのさらなる信頼低下を招くことにもなった。一連の行動は総じてトルコが常々訴える「安全保障上の危機」の正当性が益々失われる結果になったと言える。

ピックアップニュース

7月2日 - エルドアン、シリアのクルド人をめぐる緊張緩和のためロシア防衛関係者を招待

イスタンブール：トルコ大統領レジェップ・タイイップ・エルドアンは日曜、イスタンブールにおいてロシア防衛相セルゲイ・ショイグとシリア国境地帯のトルコ軍部隊とクルド人部隊の緊張激化について会談した。トルコとロシアは、それぞれ前者がシリア大統領バシール・アサドの退陣を求め後者はその主要な同盟相手であり、シリア紛争を巡って長く対立してきた。しかし去年より協力関係は際立って強化おり、カザフスタンの首都アスタナにおける和平協議を主導した。日曜の会談はボスポラス海峡沿いのタラビヤ宮殿で行われ、大統領府の発表によるとトルコ軍参謀総長フルシ・アカルと情報機関トップのハカン・フィダンが同席していた。

7月3日 - クバッド・タラバニ副首相：我々は厳格な規則の改正に取り組む

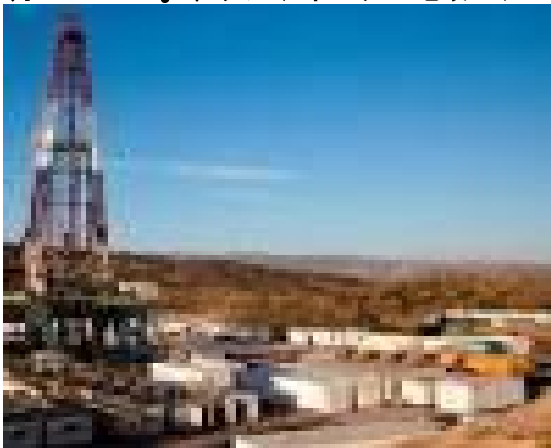


スレイマニ：イラク・クルディスタン地域政府副首相クバッド・タラバニは日曜、近く公務員の厳格な諸規則を撤廃と新たな仕組みへの移行が計画されていると発表した。クバッド副首相によると「我々は現在厳格な諸規則撤廃に向けて動いている。新たな給与体系の構築を目指している」政府職員の給与支払いに生体認証システム導入が近く完了する。タラバニ副首相はシステムは「最終的な確認段階」に入っており、9月までには運用に入ると発言している。また政府はシステムの完成に急いではおらず、堅牢なシステムを構築するために時間を費やしていると説明している。(ルダウ)

7月4日 - マスード・バルザニ：クルディスタンは平和的な独立に向けて進む

ヘウレル：イラク・クルディスタン地域政府大統領マスード・バルザニは火曜、クルディスタン地域は対話と平和的手段によってイラクからの分離独立を果たすと発言した。クルディスタン地域大統領府は、サウジアラビア、ヨルダン、エジプト、UAE、パレスチナ、クウェート、スーダンの各大使との会合におけるバルザニ大統領の発言について発表した。発表によると、バルザニ大統領は9月25日の住民投票について正当かつクルド人固有の権利の行使であり、あらゆる側から支持され得ると発言した。また、「もし我々がテロの原因に対処しなければ、モスルにおけるダーイシュの敗北はテロ活動の終焉にはなりえない」とクルディスタン独立の動きを地域安定化の観点から正当化した。(NRTテレビ)

7月4日 - TAQA、クルディスタン地域のアトラシュ油田における原油生産を開始



アブダビ国営資源公社(TAQA)とマラソン石油を含む提携会社は月曜、クルディスタン地域のアトラシュ地区における原油生産を開始した。TAQAの声明によるとアトラシュにおける同社生産設備は一日あたり3万バレルの原油生産が可能である。同社によるとアトラシュ油田はクルディスタン地

域で最大の新たな原油生産拠点である。油田はヘウレルから85km離れたところに位置し、2011年に発見され2013年に開発が開始されたと言われている。TAQAは2017年中に生産量を一日あたり3万バレルまで引き上げると想定している。TAQAは生産量の内39.9%を受け取る分配協定を結んでいる。同社によると、クルディスタン地域政府は25%、総合掘削社、マラソン石油といった他の共同事業体は35.1%の取り分が割り当てられている。

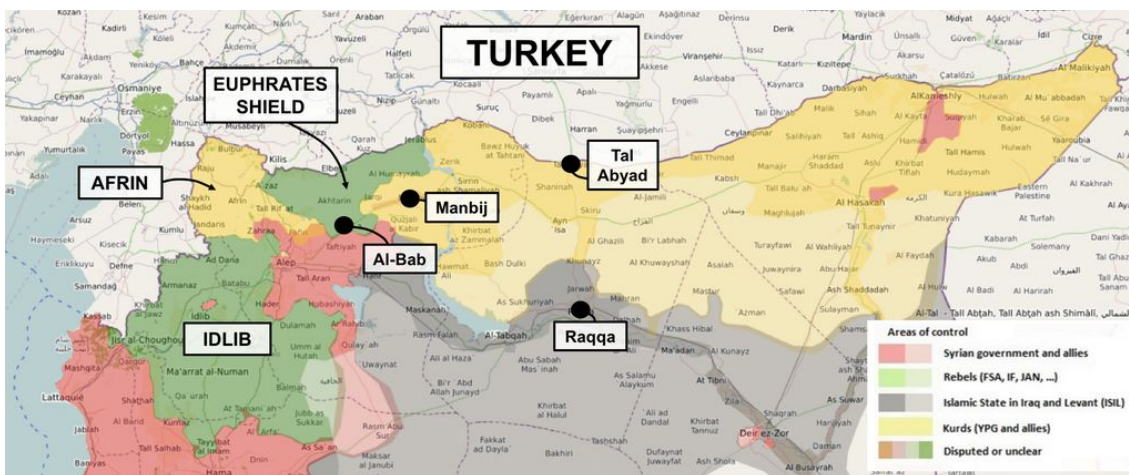
7月4日 - シリアのクルド人勢力、ラッカ旧市街の壁を突破

ワシントン：アメリカが支援するクルド人主体の勢力は、テロ組織ダーイシュからラッカを奪還すべく、旧市街の壁を破り突入した。アメリカ中央軍司令部は「有志連合は、ラッカで最もよく要塞化された地区を囲む壁の内ラフィカ壁に2つの血路を開き前進するシリア民主軍(QSD)への支援を継続する」と声明を出した。声明においてクルド人主体のQSDは日曜、初めてユーフラテス川を超えて市街南の地域に突入したことに言及した。QSDは数ヶ月かけてダーイシュの最重要拠点を包囲し先月初めて東西から市街に突入した。(AFP)

7月4日 - トルコ、アフリンにおいてシリアのクルド人に対する作戦実施の可能性に言及

アンカラ：トルコは北シリアにおける「安全保障上の脅威状態」が継続するのであれば、北シリア、シリアのクルディスタンのアフリン地区における越境作戦を実施する可能性について言及した。

トルコ国防相フィクリ・イシクは4日、国営テレビ局TRTのインタビューにトルコ軍はトルコ軍占領下アフリンへの「僅かな銃撃」に対し反撃する用意があると話した。イシクは報道から数時間経ってから、一晩中のシリアのクルド勢力への報復攻撃について語った。トルコはアメリカが支援するシリアのクルド勢力をトルコ国内の反政府勢力の影響下にあると考えている。アメリカはクルド勢力をシリアにおけるダーイシュとの戦いで最も有力な力と見ている。イシクはトルコ軍の行動について「我々はアフリンに安全保障上の脅威がある限り必要な行動を取り続ける」と語った。



クルド勢力の支配下にある北シリア 出典：@desyracuse

クルド系ハワルニュースによると、クルド勢力人民防衛隊(YPG)はトルコ軍によるアフリン砲撃は一週間続き多くの被害を報告しているという。北シリアを統治する民主統一党(PYD)はシリアのクルディスタンにおけるトルコの侵略行為について、国際社会は制止する必要があると主張している。

トルコは自国に敵対的なクルド勢力が北シリアを完全に掌握し、国内のクルド人の分離独立願望を刺激することを恐れている。2016年8月24日トルコ軍は傘下の自由シリア軍勢力と共同でアフリンからクルド勢力を掃討する作戦を開始し、現在までシリア国内に軍を留めている。(AP通信)

7月11日 - デミストラ：クルド人をシリア和平協議に参加させるべき



ジュネーブ：国連シリア特別大使ステファン・デミストラは、ロシアのニュースメディアスプートニクのインタビューで、シリア和平協議にクルド人の参加が必須であるとの意見を表明した。和平協議が再開されればクルド人の声はもはや無視できないとのことである。

デミストラ大使は和平協議におけるクルド人の役割について、「クルド人はシリア内戦において重要な関係勢力である、シリアのクルド人は現在の状況や将来の憲法制定について意見を述べる権利を与えられねばならない」と発言した。さらに「現在の状況において新憲法の内容より技術的、行程の問題について協議している。より具体的な内容を議論する段階になれば、クルド人の声を黙殺するのは困難だ」とシリアの新体制を決める議論にクルド人の

参加が不可欠であることを強調した。

特別大使によるとシリア反体制派の最高交渉委員会にはクルド人の委員がいる。「シリア新憲法の草案を決める際には全てのシリア人が立場の違いを超える必要がある。将来のシリア憲法制定にはシリアの全ての勢力の参加が必須である」と主張した。

7月18日 - クルディスタン選挙管理委員会のメンバー達が住民投票と併せた議会選挙実施を主張

クルディスタン地域の独立高等選挙及び住民投票管理委員会の数人の委員は、9月25日の住民投票とあわせて議会選挙を実施することをクルディスタン地域議会と大統領府に要求した。委員会はもし住民投票とあわせて議会と大統領選挙を行わない限り、その後僅かな機会しかないであろうと語った。委員達が署名した書簡には、「法的に委員会はこのために僅かな時間しかないし、手続きを遂行するのは困難であろう」と記されている。書簡において、委員会は住民投票実施という好機を活かすことは可能で、それを逃せば僅かな予算しか残されていないだろうと指摘された。

7月18日 - YNK、イランに対し住民投票はクルディスタンの将来を決めることについて説明



スレイマニ：クルディスタン愛国者連盟(YNK)の代表者は今週行われたイラン政府との会合で、クルディスタンの独立を問う住民投票は地域の未来を保証するものだと伝えた。YNK執行部のマラ・バフティヤル委員長

は18日、記者会見において「我々はイラン・イスラム共和国と高官同士の会合を行った。そこでクルディスタンにおける独立を問う住

民投票は地域の未来を保証するための決断だと伝えた」と話した。イラン側はYNKに対し住民投票の実施はクルディスタンを孤立させ弱体化させると警告した。イラン最高国防評議会議長アリ・シャムハニは17日テヘランにて、「この問題は一見魅力的に見えるが、実際はイラクのクルド人への風当たりは強まり孤立させ、クルディスタン地域のみならずイラク全体を不安定にする」と発言した。(ルダウ)

7月18日 - SHK、イランと農産物輸出協定を締結



写真：ファルジン・ハサン(ルダウ)

イラクのクルディスタン地域政府(SHK)農業及び水資源相アブドウルサタル・マジドは17日、イラン側担当者と会合しクルディスタン地域の農産物の販路拡大について検討した。マジド大臣はイラン農相とクルディスタン地域の農産物の輸出促進について要請し、声明によると「イラン側は我々の要求を受け入れた。地域内の商人は農家から農産物を買ってイランに輸出することが可能になる」。マジド大臣はまた水資源の責任者でもあり、クルディスタン地域はイランが国境をまたぐ小ザブ川をせき止めたことで問題を抱えている。しかし声明はこの件についての両大臣の見解については言及しなかった。(ルダウ)

7月19日 - クルディスタン地域政府はアメリカにイラクからの分離独立の調停者たることを機体している



クルディスタン地域政府国際関係担当ファラフ・ムスタファは、クルディスタン地域がイラクから分離独立する際、アメリカにヘウレルとバグダッドの間を取り持つことを期待していると明らかにした。ムスタファ氏はフォーリン・ポリシー誌に対して、「アメリカは非常に重要な役割を果たすことが可能だ。アメリカはヘウレルとバグダッドを交渉の席につかせる架け橋になりうる」とアメリカについて意見を述べた。アメリカの基本的立場は対ダーイシュ作戦に支障をきたすことがないように、9月25日の住民投票は2018年のイラク議会選挙まで延期されるべきという。(ルダウ)

7月23日 - YNK : テヘランからの協力は期待しない



スレイマニ：イランの指導者たちは、イランを訪問するイラクのクルディスタン地域からの代表団に対しイラン政府に対し過大な期待をせず、住民投票について何か「朗報」を期待すべきでないと助言した。クルディスタン愛国者連盟(YNK)幹部マラ・バフティヤルは20日、記者団に対してイランはトルコ、イラクと同じくクルディスタンは住民投票の結果によって困難に陥ると話したと伝えた。YNK政治局執行部トップであるバフティヤルは17日、テヘランにおける会談に出席した。イラン側はYNKに何も期待しないよう伝えたという。イランとYNKは80年台のイラン・イラク戦争まで遡る良好な関係を保っている。(ルダウ)

7月26日 - シリア・クルディスタン高官：アメリカのシリアにおける役割はダーイシュ壊滅後こそ需要



コバニ：シリアのクルディスタンにおいてアメリカが支援するクルド勢力主体のシリア民主評議会の共同委員長イーハム・アフマド氏は26日、クルド勢力がダーイシュからラッカを解放すれば、市政、再建といった面でアメリカの長期にわたる政治的、資金面での援助が必要になると主張した。アフマド氏はコバニにおけるAP通信の取材に対して、ダーイシュ壊滅におけるアメリカの役割はラッカ解放で終わらず、むしろ戦乱で分断された地域の安定を取り戻すためにより必要とされると発言した。

アメリカの同盟国であるトルコはシリアのクルド人勢力を、トルコ国内で活動するクルディスタン労働者党の分派と見ており、アメリカのシリア・クルディスタン支援に反発している。これについてアフマド氏は、「もしアメリカが地域の安定と、自国をテロ攻撃から守りたいのであれば、民主的政体がシリアに樹立されるまで関与を続けるべきである」とテロとの戦いを優先するよう呼びかけた。

アメリカはトルコの反発をよそにクルド勢力のダーイシュ壊滅を後押しするため、新たな武器支援を行った。(AP)

7月24日 - マリキ、ヘウレルとバグダッド間の「真剣な交渉」の必要性を訴える

モスクワ：イラク副大統領ヌーリー・マーリキーは24日、滞在中のロシアにてクルディスタン地域における住民投票は「イラクの統一」を脅かすことと、クルディスタン地域とイラク中央政府の「真剣な交渉」が必要だと発言した。彼によると、中央政府はクルド民族を支援しており、現状起きていることは「イラク国家の利益にはならない」。また記者会見において、「やっと達成されたかに見えたイラクの統一は、分離願望を持つ人々による住民投票によって危険にさらされている」とはつげんした。彼は強い言葉で歴史的住民投票を非難し、クルディスタンのイラクからの分離は「イラクに力の空白地帯を生み出しイラクを不安定にさせる」と指摘した。(ルダウ)

7月27日 - EU代表団、住民投票は建設的対話に水を差している

バグダッド：イラクを訪問中のEU代表団は26日の公式声明において、クルディスタン地域の独立を問う住民投票について、イラクとクルディスタン地域の建設的対話に「水を差している」と指摘した。EU代表団はイラク及びクルディスタン地域の政府に対して、対ダーイシュ作戦に見られた協力ぶりを、境界線の確定を含めた懸案事項の解決に向けた議論に活かすべきだと主張した。声明において、「連邦政府とクルディスタン地域政府の建設的対話は相互利益につながる」と協力を促した。加えて政治的解決の追求は、イラク、クルディスタン地域両政府の「共通の責任」だとした。

7月28日 - アメリカ大使、マスード・バルザニ：イラクとクルディスタン地域の政治情勢について会談

ヘウレル：アメリカ駐イラク大使ダグラス・シリマンとクルディスタン地域政府(SHK)大統領マスード・バルザニは、イラクとクルディスタン地域の政治情勢に関する会談において「率直な」意見交換をした。SHK大統領府の声明によると、その中でシリマン大使はSHKとペシュメルガに対する支援について再確認した。27日のヘウレルにおける会談後の声明では、「会談においてイラクとクルディスタンの政治状況について率直な意見交換がなされた。またテロリズム打倒にむけた資金援助は継続されることが強調された」と会談の内容を伝えている。なおバグダッドのアメリカ大使館は声明を出していない。(ルダウ)

7月28日 - シリアのクルディスタンは地域評議会と議会選挙の日程について合意と発表



ヘウレル：ロイターによると、シリアのクルディスタン地域、通称「ロジャバ」の政府は「自治をより強固にする」ことを目指し選挙を予定していることが明らかになった。選挙は9月22日にそれぞれのカントンを構成する地域の評議会のが実施され、11月3日より広域の評議会選挙が実施される予定である。さらに来年1月19日にはロジャバ全体の選挙が実施されるとのことである。ロイターが確認したところによると、「投票日と選挙実施方法は、昨年12月に設立された諸機関管理と選挙準備のための評議会において合意に至った」。政府関係者によるとシリアのクルド人はシリア国家からの独立は目指していない。

トルコはシリアにおけるクルド人の自治拡大が自国南部のクルド人の独立願望を刺激することを恐れている。一方アサドはクルド人による北シリア統治を事実上容認してきた。しかし「連邦制」については反対を表明しロジャバの統治評議会は「一時的な体制」とみなしている。(クルディスタン24)

7月29日 - マスルール・バルザニ：主権の欠如がクルド人に虐殺の悲劇をもたらした



ワシントン：クルディスタン地域安全保障評議会委員長マスルール・バルザニはアメリカにおける会議にて、クルド人の困難が世界から無視されてきたのは主権が無かったことによると発言した。バルザニ氏はイラクの政策は何度も試みられてはその都度失敗してきたと主張し、独立したクルディスタン国家はアメリカの戦略的パートナー足りうると発言した。さらにアメリカ軍が2003年のイラク侵攻で多大な犠牲を払ってきたのに対し、クルディスタン地域においては1991年の地域政府設立以来一人の犠牲者も出していないことに触れた。(ルダウ)

7月28日 - YPG：トルコの攻撃が続くのであればラッカ作戦の中断もあり得る

カミシュロ：シリアのクルド人主体の人民防衛隊(YPG)司令官シパン・ヘモは、YPGが中核となって結成されアメリカが支援するシリア民主軍(QSD)は28日、シリアのクルディスタン地域に対するトルコ軍の攻撃が継続するのであれば、対ダーイシュ作戦の中断もあり得ると発言した。

ヘモ氏はQSDの一部である武装勢力「革命軍」は、シャフバ地域の防衛から兵力を割くことでラッカ作戦に貢献していると説明した。シャフバ地域はコバニとアフリンを結ぶ重要地域である。クルド系メディア・ユーフラテスニュースはヘモ氏の発言を伝え、「我々はこの問題を有志連合とも共有している。もしトルコ軍がアフリンとシャフバの占領を目指し攻撃を継続するなら、ラッカ作戦の継続は不可能だ」と、トルコ軍の行動が対ダーイシュ作戦の支障になっていることが明らかになった。

トルコ軍は先月中旬よりアフリン地区との境界上に部隊を配置しクルド人勢力への敵対行動を続けている。先月18日には数十名のトルコ軍参加の武装勢力メンバーが革命軍との衝突で死亡している。(ルダウ)

7月30日 - フランス：クルディスタンの住民投票には賛成も反対の立場を取らない

パリ：フランス外務省高官は28日、イラクのクルディスタン地域の独立を問う住民投票について、イラクの統一を支持しつつも賛成、反対のいずれの立場も取らない意向であることを明らかにした。外交官はNRTテレビの取材に対し、フランス政府の立場はイラクの統一の支持とクルディスタン地域の自治のための適切な連邦制の運用の二点であると強調した。(NRTテレビ)

7月30日 - 国際機関、クルディスタン地域住民投票の監視の準備はできている模様

ヘウレル：イラクのクルディスタン地域における住民投票を監督する選挙管理委員会は、投票を監視する幾つかの国際機関は既に準備が整っていることを明らかにした。独立高等選挙・住民投票管理委員会(IHERC)トップのハンドレン・モハメッド氏は30日、国際機関CODがIHERCの準備状況を知るため訪れたことを取材した記者に告げた。CODは住民投票を監視するための国際監視団を派遣する見込みである。(NRT)

7月30日 - 在イラク・バングラデシュ大使がクルディスタン地域に外交事務所開設計画について明かす

ヘウレル：バングラデシュ在イラク大使は、クルディスタン地域政府首相ネチルワン・バルザニとの会談において、近い将来ヘウレルにバングラデシュの外交事務所を開設する予定であることを明らかにした。首相府の声明によるとアブ・マクスウド・フォルハド大使は、バングラデシュはクルディスタン地域との関係をより強化するため外交事務所開設をする。会談において両者は地域におけるバングラデシュ人労働者の問題について触れ、フォルハド大使は大使館が開設されれば労働者に関する事項を中心に取扱いと述べた。(ルダウ)

7月31日 - クルディスタン地域政府：国連に対しクルディスタン地域と関わるよう要請

ヘウレル：クルディスタン地域の外交部門トップのファラフ・ムスタファ氏は、国連に対し中央政府との合意をクルディスタン地域がそのまま履行すると期待すべきでないと言明した。ムスタファ氏は30日、国連が後援する紛争地域の性暴力に関するカンファレンスにおいて、バグダッドを経由するのではなく直接クルディスタン地域と交渉するよう主張した。「我々はあなた方にクルディスタン地域をパートナーと認め、バグダッドのみと交渉を行うことがないよう求める」と発言した。(ルダウ)

